

2020年7月27日

株式会社東北博報堂 東北6県研究所

## 東北6県研究所、新型コロナウイルスを経験した東北の未来を前向きに描く 「Future TOHOKU」サイト公開！

この度、ロッケン-東北6県研究所-（研究所長：加勇田亮二、以下「ロッケン」）および株式会社東北博報堂（代表取締役社長： 當麻 裕介）は、コロナを経験した私たちが、10年後の東北にひろげていきたい日常のしあわせを、より前向きに描き、つくる、シンク&アクトプロジェクト「Future TOHOKU」の特設サイトを公開しました。

当サイトでは、「距離観【きょりかん】～再計測する生活者～※」というテーマのもと、今後実現・定着するかもしれない新しい営みを、7つのテーマ（食生活 / 働き方 / 住居 / 趣味・学習 / 車・トラフィック / 観光・祭り / 健康生活）に分類し、希望的楽観により描きます。日本や世界があこがれる「東北らしい、あったらいいな」な生活シーンの数々。皆さんの再計測や新しい営みのきっかけになるレポートや物語を定期的に掲載してまいります。

# Future TOHOKU

こうなれば、きっとおもしろい。  
こんな人が増えれば、しあわせがひろがる。  
未来を前向きにとらえることで見えてきた  
東北らしい営みがあります。  
日本中、世界中の人々が憧れるような  
あたらしい東北を共創してみませんか？



<https://rokken-lab.com/future-tohoku/>

## ※ 距離観

世界の共通習慣となった「ソーシャルディスタンス」。ロッケンは、この“新しい生活様式”によって多くの生活者が、対人的・物理的距離の確保にとどまらず、自身とあらゆる価値や欲求との距離を測り直していると考えています。これまでの営みの何がよくて、何がよくなかったのか。これからの営みで何をあきらめて、何を始めるのか。一人ひとりが自身の価値や欲求と近づいたり、離れたりにしている。それは、ありたい未来を見据えた生活者の意識的かつ確信的な「計測」です。ロッケンは、このような生活者と価値や欲求の距離の変容を「距離観」と定義しています。

## ● シンク&アクトプロジェクト「Future TOHOKU」

コロナを経験した私たちが、10年後の東北にひろげていきたい日常のしあわせを、より前向きに描き、つくっていくプロジェクトです。

<https://rokken-lab.com/news/431.html> (2020年6月2日発表)

## ■ ロッケン - 東北6県研究所 - (研究所長：加勇田亮二)

東北を、もっとおもしろくする。をミッションに、あらたなビジネス、プロダクトやコンテンツを開発・発信していく、株式会社東北博報堂のシンク&アクトタンク組織。「ただしさよりも、おもしろさ」を行動基準に、研究とクリエイティブの両輪で、日本中、世界中に、東北って、おもしろそうというイメージを未来に向けてひろげていきます。

公式サイト | <https://rokken-lab.com/>

## ■ 株式会社東北博報堂 (代表取締役社長： 當麻 裕介)

東北博報堂は、東北全域にネットワークを有する博報堂グループの広告会社です。

地域の抱える様々な課題に対し、「正解より別解。」という博報堂グループのメッセージを胸に、地域、社会、生活者に別解を提供していく。広告会社の枠を超えて、今まで以上に東北の課題解決・持続的成長に貢献していきます。

公式サイト | <http://www.tohoku.hakuhodo.co.jp/>

---

### 【本件に関するお問い合わせ】

東北博報堂 東北6県研究所 (ロッケン) 加勇田・栗原 TEL: 022-263-2211